

サイ・テラ 知と技の発信

[239]

埼玉大学・理工学研究の現場

職業から「あなたの専門は何ですか?」とよく聞かれますが、実は毎回のよこ返答に窮しています。

職業から「あなたの専門は何ですか?」とよく聞かれますが、実は毎回のよこ返答に窮しています。

地形学(地理学の一分野)を修め、化学・鉱物分析と物性試験を「SWApnet」とは、Stone Weathering and Atmospheric Pollutionの略称で、地形学、地上の知合いは多いもの、あいく日本では全体を包括して議論できる人は少数です。

地形学(地理学の一分野)を修め、化学・鉱物分析と物性試験を「SWApnet」とは、Stone Weathering and Atmospheric Pollutionの略称で、地形学、地上の知合いは多いもの、あいく日本では全体を包括して議論できる人は少数です。



おぐち・ちあき 1988年筑波大学大学院地球科学研究科修士(理学)。筑波大学地球科学系助手、国際農林水産業研究センター(JST/JSPS科学研究センター)研究員を経て、04年6月から現職。専門は岩石風化論(地形・地圏材料学)。

埼玉経済

埼玉県は地質学発祥の地

小口 千明 大学院理工学研究科 准教授

研究者が4年に1度 大気汚染(Atmospheric Pollution)などの環境条件と石の風化(weathering)との関係について、多角的な視点から議論する集まりで、私自身のもつ手法と調査対象をマッチさせた状態で深く議論できる瞬間でした。

■石造建造物の文化

ヨーロッパでは中世までに確立された美しい装飾をもつ石造建造物文化があります。土木建築の技術が開いた時代とも言えましょう。それが近代文明の発展に伴って大気汚染により風化が進み、具体的には大気汚染の影響で酸性雨が降って徐々に石材が解けていったのです。この現象は「水・岩石との反応」の一つとも考えることができます。

石造建造物には世界遺産に認定されているものも多く存在します。そこで風化の深刻さを認識し、きちんと調査してから対応策を考えると、いつか高まりました。日本でもかつては彩色の施された厩屋仏が国内各地に存在していたのに、多くは風化により剥離してしまい、元来の表情を認識することが難しいものも多くあります。

ヨーロッパと違うのは、日本ではこの20年間に地学教育が疎かになった背景もあり、これら石造文化財の材料である岩石等の性質をきちんと調査できる者の絶対数が少ないという、なかなか育っていないという状況が続いていることでもあります。

全国的にも有名な埼玉県内の景勝地である長瀬が、「日本の地質学発祥の地」であることを、いついぞうだけの方が認識しているのでしょうか。「変わらざるもの石のごとし」という故事がありますが、果たしてそうでしょうか?

■長期の視点が必要

福島原発の事故以来、放射性

廃棄物の処分など数百年・数千年オーダーの長期にわたる現象も考えていかざるを得なくなりました。そこで長期でなくとも、近代化遺産の保存修復、コンクリート構造物の劣化や剥離(はくり)問題など、多くに通じる現象が風化なのです。松下幸之助氏も著書の中で言っています。「短い時間をとってみれば、ほとんど同じままであるかのように見える石も、何千年、何万年という歳月をとってみれば、あるいは摩滅(まめつ)し、あるいは苔(コケ)むすなどして、そこに変化が生じてくる」彼は人間関係をスムーズに進めるための助言の一部として用いましたが、人間活動として、これからは長期にわたる視点を持つことが大事なのです。そのような教育の一端を担う分野が、広い意味での地球科学、さまざまな面で社会に役立つ学問なのです。

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・7995・9161 FAX 048・653・9040
dkeizai@saitama-np.co.jp